編集後記

最近は「看図アプローチ」というキーワードを入れてネット検索をすると「看図アプローチとは」というAIがまとめた説明が自動的に出てきます。しかも極めて的確な説明になっています。これは全国の先生方が，数多くの看図アプローチ実践を重ね，それをAIも読み取れる形にして発信してきてくれた成果であると思います。

本号第1論文の溝上広樹もこれまでにたくさんの論文を発表してくれています。溝上の実践・研究はどれも現在の教育現場のニーズに応えかつ教育の未来を切り開いていく先見性を備えています。看図アプローチをさらに普及させていくためには，看図アプローチ実践をファシリテートできる人材の育成が欠かせません。そのため看図アプローチ研修会の中身と進め方に関しての実践的な検討が求められます。溝上論文はこのようなニーズに応えてくれる論文になっています。しかもAIも活用しつつ，発問づくりの方法を洗練してくれています。溝上論文の成果を私（鹿内）も看図アプローチ研修会のデザインに早速取り入れていこうと思っています。

松尾健一も溝上実践の成果を早速活用しています。それが本号第2論文です。「看図アプローチは発問づくりが難しい」という声を時々耳にします。松尾は自らが行った物理の授業の中で発問づくりを学習者にやってもらっています。そのために，溝上が洗練してくれた発問づくりの方法を活用し成果をあげています。さらに特記すべきは，松尾は，授業で活用するビジュアルテキストを生成AIを活用して構成していることです。生成AIはまだ発展途上にあるツールです。現時点での生成AIの能力と限界を松尾は実践によって確認しています。溝上実践の成果を取り入れて授業をデザインしていく発展性。ビジュアルテキストの構成に生成AIを活用している先進性。松尾の授業はこの2つを兼ね備えたすぐれた実践になっています。

第3論文は「ふじかん」の活動実践報告です。「ふじかん」は「ふじた看図アプローチ研究会」の略称です。「ふじかん」は藤田医科大学の教員・職員が中心になって運営されていますが，他大学の教員や職員・企業職員・学生等も参加する多校種・多職種・多機関が連携したダイナミックな活動を行っています。また活動の熱量にふさわしい数々の成果を著書や論文として発信し続けています。そのような創造的共同体「ふじかん」の第26回目までの「歴史」を第3論文ではまとめています。「ふじかん」論文では，一連の看図アプローチ実践活動を評価することも行っています。評価の基準としているのがジョンソン兄弟が提案している「協同学習の定義」です。これまでの看図アプローチ研究では，授業デザインや教材デザインにウエイトが置かれていました。看図アプローチの評価に関する研究は手薄になっていました。「ふじかん」の今回の論文はこれまでの看図アプローチ研究を補完してくれる重要な成果にもなっています。

今号は，石田ゆき編集長が大きな仕事を抱える中でDTPも含めた編集作業が行われました。掲載された3論文の執筆者の皆様には石田編集長への負担を大きくしないためのご配慮とご協力をいただきました。ありがとうございます。

＜表紙を読み解く＞

イチゴをビジュアルテキストにした授業を考えていたときに学んだことです。イチゴの果実を縦に切ると，果実の中心部から外側に向かってたくさんの白い筋が走っていることがわかります。その白い筋が「維管束」だと知ったときは驚きました。なぜなら私が理科の教科書で学んできた維管束とはイメージが全く違っていたからです。理科の教科書では植物の茎を輪切りにした写真を用いて維管束をイメージさせていました。維管束は養分を運ぶ役割を果たしているという知識はもっていました。しかしイチゴの果実の中にある維管束がどこに養分を運んでいるのかを知ったときは，またとても驚きました。イ

チゴの維管束は果実の表面に散らばっているたくさんの「つぶつぶ」に養分を届けているのです。イチゴの断面を見てそのことを確認するとまたまた驚くことになります。ひとつひとつの維管束が必ずひとつの「つぶつぶ」につながっているのです。イチゴの表面にある「つぶつぶ」が本当の果実であるということを知って私はさらに驚きました。私が果実だと思っていた部分は「偽果」と呼ばれています。イチゴの「本当の実」は表面にある「つぶつぶ」であるということがよく理解できる命名です。

「表紙のデザインを読む」というコラムを維管束の話から始めたのにはわけがあります。私は表紙の写真を「ものこと原理」を使って読み解いてみました。そのとき３番目に取り出した「もの」が維管束だったのです。ちなみに１番目に取り出したのは「黄葉」，２番目は「紅葉」でした。表紙写真にたくさん写っている「葉脈」が維管束になります。維管束は養分を運ぶ器官です。本号掲載の３つの論文は，いずれも看図アプローチの次の実りにつながっていく養分を運んでくれる大切な成果ばかりです。どの葉っぱにもたくさんの維管束が写りこみ，３つの論文の素晴らしさを称えてくれています。今回もいい表紙ができました。今号でも，読み解きを楽しめる写真を撮ってきてくれた石田ゆき編集長に感謝です。

文責　鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 26 号

発行年月日　2025 年 11 月 15 日

編　　集　「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員会
石田　ゆき
伊藤　公紀
溝上　広樹
織田　千賀子
鹿内　信善 *
山下　雅佳実
渡辺　聡
(* 印は編集代表)

発　　行　全国看図アプローチ研究会
kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP・表紙デザイン　石田ゆき